

Weekly Reports 2022-2023



国際ロータリー第2680地区

Rotary
加古川ロータリークラブ



2022-23年度RI会長: ジェニファー・E. ジョーンズ地区ガバナー: 阪上 栄樹
加古川ロータリークラブ会長: 芝本 忠雄 / 幹事: 木下 正隆
〒675-0064 兵庫県加古川市加古川町溝之口800番地 加古川商工会議所会館5F
TEL 079-423-0661 FAX 079-423-0677 e-Mail kakogawa@rotaryclub.ne.jp

令和5年2月28日(火) 晴 No. 31



▲会長挨拶



▲卓話の坂本会員

会長の時間

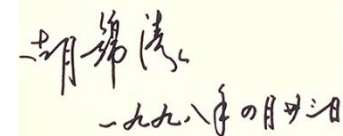
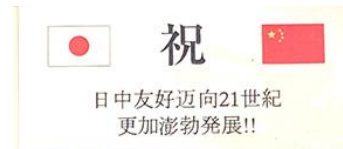
会長 芝本 忠雄

皆さん、こんにちは。
今日は2月末日、2月は通常月より2、3日短いだけに非常に短く感じます。また随分日が長くなって、一雨ごとに暖かくなってきており、春の準備をしているようです。明日より3月。13日からは待ちに待ったマスク解除解禁です。そうこうしているうちに桜前線が話題になるのでしょう。

さて、今日は「平和構築と紛争予防月間」に因んで、私の体験をお話したいと思います。ここにお持ちしたのは、1998年当時中華人民共和国副主席の胡錦濤さんと面談した時の記念の写真と自筆のサイン色紙です。前年度日本青年会議所の中国担当の委員会の委員長をしていた私に外務省から中国国家副主席の胡錦濤さんが来春来日予定で、JC幹部の方々との面談を希望されているので、人選をお願いしたいとのお話があり、10人を選抜し実現したものです。

私の中国との交流のきっかけは、1990年日本JCの海外研修生交流委員会に幹事として出向してから始まりました。その当時の命題は「民間外交こそが世界平和への近道」ということで天安門事件後、まだまだ中国に公式訪問する団体が少ない頃に、まずは相手を知らなければということで中華全国青年連合会との交流が始まりました。全青連は中国政府の下部組織ですから、将来の政府高官候補のエリート集団です。歴代の全青連主席経験者から前国家主席の胡錦濤さん、現首相の李克強さん、中央政治局員で女性の劉延東さんと多くの人材を輩出しています。当時日本のJCメンバーは約6万人です。それに対して全青連のメンバーは3億人です。国家組織として青年世代の全員がメンバーだと言われました。天安門事件後、まだ世界各国との交流が抑制されていた時期での訪中ミッションは、先方からは大歓迎され、人民大会堂での首脳面談と歓迎レセプション、釣魚台迎賓館での晚餐会と通常の旅行では経験できない体験をしました。

私自身1990年以降約30回の訪中を経験し、民間人の我々と中国共産党員で国家組織の若手幹部との節度を保ちながらの交流は、私自身が中国という国を理解するのに非常に



良い経験になりました。経済発展途上で何でもありのごじゃごじゃの35年前の中国から北京オリンピック、上海万博を経て今や経済大国へと短期間での高度成長を目の当たりにしたのは、非常に有意義な経験になりました。土地絡みの開発の速さは、共産主義国でなければ出来ないことだと強く感じました。

そして全青連の国際部の日本担当は、日本への留学経験もあり、日本語も上手く、日本の資本主義、自由主義は、よく理解されていました。ただ、幾ら親しくなっても腹の内はなかなか見せませんが、一人っ子政策への不満を漏らされていたのは非常に印象的でした。当時の幾度もの相互交流の実践は、民間外交の大切さ体験から感じ、「平和の構築、紛争の予防」に少しは役立ったと自負しております。以上、私の経験をお話致しました。

今週の土日に地区大会がポートピアホテルにての開催で予定されています。私は土曜日の会長幹事会から出席予定で、夜にはRI会長代理歓迎晩餐会も楽しみです。日曜日は本会議ですので、朝から皆さんのお越しをお待ちしておりますのでよろしくお願い致します。

本日の卓話は、神戸新聞社の坂本会員の卓話です。普段お聞き出来ないような裏情報もお持ちだと思いますので、ここだけのオフレコのお話も含め、楽しみにしておりますのでよろしくお願い申し上げます。

以上で会長の時間を終わらせて戴きます。

本日もよろしくお願い申し上げます。

幹事報告

- 1) ☆他クラブニュース 例会変更のお知らせ
加古川中央RC ◇3月30日(木)→休会【定款第7条第1節(C)】
◇4月 6日(木)→4月 2日(日)観桜会
於;龍野公園お花見、ホテル万葉岬
- 2) 次週3月7日の例会で、文書にてお知らせしておりますとおり、定款の変更点についての説明と、細則改正についての採決をとる予定です。2月21日に配布致しました定款・細則の資料をお持ち下さいますようお願い致します。

ニコニコ



- | | | | |
|---|---|---|--------------------------|
| 省 | 略 | ☺ | 坂本会員、本日の卓話よろしくお願いします。 |
| | | ☺ | 今週末の地区大会への参加、よろしくお願いします。 |
| 省 | 略 | ☺ | 坂本会員、卓話よろしくお願いいたします。 |
| 省 | 略 | ☺ | 卓話をさせて頂きます。よろしくお願いします。 |
| 省 | 略 | ☺ | 坂本会員、卓話楽しみです。 |
| 省 | 略 | ☺ | 坂本会員、本日の卓話楽しみです。 |
| 省 | 略 | ☺ | 坂本会員、本日の卓話楽しみです。 |
| 省 | 略 | ☺ | 坂本会員、卓話宜しくお願います。 |
| 省 | 略 | ☺ | テーブルの花いただきます。 |

以上9件 ¥13,000-
本年度累計¥1,384,000-

出席委員会

- | | | | | | | |
|-----|--------|----------|--------------|---------------|-----------|---------|
| ☆ 今 | 週 | 会員数 70 名 | 出席 40 名 | 出席免除 14 名 | 欠席 16 名 | |
| ☆ 欠 | 席 | 者 | 省略 | | | |
| ☆ 前 | 々 | 週 | 会員数 70 名 | 出席 41 名 | 出席免除 15 名 | 欠席 14 名 |
| ☆ | メークアップ | | 加古川中央RC 2/23 | 古庄、畑、河合、松尾、正木 | | |

親睦活動委員会

例会場当番

3月 7日(火) 橋本、前川容

3月14日(火) 畑、前川真



プログラム委員会

本日2月28日(火)	3月7日(火)	3月14日(火)	3月21日(火)
卓話 「情報革命と新聞」 坂本担当	ゲスト卓話 「環境よもやま話」 (株) 一成 代表取締役 木下 一成氏	クラブ協議会 地区大会後	休会 (祝日)

3月のおよろこび

- ◆ 誕生日祝 省略
- ◆ 結婚記念日祝

- ◆ 出席表彰
- ◆ 会社創立記念日

分断された国民がロータリーの水プロジェクトでつながる

文：Arnold R. Grahl

とあるレバノン北部の学校で、生徒たちが水道の蛇口から水を飲み、洗面台で手を洗うために列を作っています。水の多くを供給する雪化粧の山々からそう遠くはありませんが、かつてこの地の生徒たちにとって、それは稀で贅沢なことでした。

「以前、この水には細菌が含まれていたので飲めませんでした」。国内第二の都市トリポリにある高校の校長、ナビラ・バベッティさんはそう説明します。生徒たちは、家庭で用意するには高価すぎるペットボトルの水に頼らざるを得ませんでした。不衛生な水で病気になり、学校を休まざるを得なくなった生徒もいました。

そこで2022年、トリポリ・コスモポリス・ロータリークラブと、スイスのジュネーブ・インターナショナル・ロータリークラブは、グローバル補助金を利用して新しい浄水システムを学校に設置しました。「今では欠席者も減り、いろいろなことが改善されました」とバベッティさんは

話します。昨年、レバノン北部で1993年以来のコレラの発生があっただけに、学校関係者は安堵しました。「今後のあらゆるプロジェクト、特に健康に関するプロジェクトでロータリーと協力していきたい」とバベッティさん。

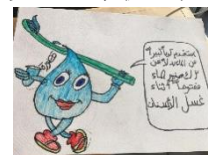
2013年、レバノンの約20のロータリークラブが結束し、他団体やレバノン政府とのパートナーシップの下、グローバル補助金を利用した数年にわたるプロジェクトを実施し、国内ほぼすべての学校に安全な飲み水を提供してきました。昨年5月には、この活動の対象となった1,000校以上の学校のうち、最後の1校に浄水フィルターとタンクが設置されました。

レバノンは中東の国の中では比較的水源が豊富ですが、インフラの老朽化や管理の不行き届きから、安全な飲み水の確保が長年の問題となっていました。山から流れてくる水は河川に入り、ゴミや産業廃棄物、農薬などによって汚染されま

す。処理された水道水も、腐食したパイプや貯水タンクによって、蛇口に届く前に汚染されることがよくあります。さらに、シリア難民の流入により、水資源はさらに圧迫しています。そのため、ズガルタ・ザヴィエ・ロータリークラブのジャミール・ムアワドさんは、2013-14年度ガバナー就任に向けて持続的な成果をもたらす大規模プロジェクトを模索したとき、すぐに「水」を優先事項とすることを決めました。レバノン北部の複数ロータリークラブが既に貯水タンクと浄水フィルターの設置を行っていたので、ムアワドさんは、政府リーダーや団体代表者と会談し、この活動を全国に拡大



レバノン北部の学校で、新たに設置された浄水フィルターを通して得られた水を飲む女の子
写真提供：Rym Dada-Husseini



歯を磨くときに水を節約するようにと、生徒が描いた絵
写真提供：Rym Dada-Husseini

する可能性を見いだして委員会を結成しました。「最初はこれを 3 年で完了したいと言ったのですが、プロジェクトが大きいただけに、そう簡単にはいきませんでした」と、ムアワドさんは振り返ります。「結局 8 年を要したのですが、最終的に特大の成果をあげることができました」

20 口のグローバル補助金を経て、レバノンにいる推定 60 万人の子ども（その半数はシリア難民）、そして生徒の両親や教師が安全な飲み水を利用できるようになりました。

しかし、このプロジェクトがもたらしたものは、水だけではありません。それは、紛争で引き裂かれた土地に、平和の種を蒔くことです。レバノンは 1975 年から 1990 年にかけて宗派と関係する内戦に見舞われ、国土は大きく分断されました。現在では 18 の宗派が、近隣諸国の干渉を受けながら、分裂した政治体制の中で権力を争っています。

このプロジェクトは、南北両側の学校に水道を設置するために、国内のさまざまな地域のロータリークラブが協力し、派閥間の協力を促進するように意図的に設計されています。

「ロータリーの良さは、宗教や政治に影響されないこと」と話すのは、2 件のグローバル補助金を先導したトリポリ・コスモポリス・ロータリークラブの元会長、リム・ダダ・フセイニさんです。「私たちは、人として互いに向き合います。みんなが大きな家族で、この国のためにベストを尽くしたいと思っています。これが私たちを団結させたもので、これからも団結させるものです」

ロータリーは協力して物事を成し遂げる力があるため、国内のほかの団体や住民から信頼を得ていると、ムアワドさんは指摘します。「ロータリーは良い評判を築いているので、大きな団体に呼びかけでも、すぐに支援を得ることができます」

このプロジェクトは、これ以上ないほど良いタイミングで実現しました。コロナ禍に加え、経済崩壊によって国の大部分が貧困に陥り、現地通貨は 2 年間で 90% 以上、価値が下落しました

2019 年からは、新たな税制措置により、社会的・経済的権利と汚職撲滅を求めるデモが数万人単位で街頭に繰り出しました。2020 年にベイルート港で起きた爆発事故では、200 人以上が死亡し、30 万人が家を失い、さらに緊張が高まりました。また最近ではエネルギー危機により、大半の家庭で 1 日に 1~2 時間しか電力が供給されなくなりました。この混乱により、何百万人もの人びとの安全な水の利用がさらに困難になっています。一時は悲惨な状況になり、UNICEF (国連児童基金) が 2021 年に「この国の水道は崩壊寸前だ」と警告したほどです。

政府が解決してくれるという希望を多くの人々が失っている、とダダ・フセイニさんは話します。「多くの人々が国外に出て行ってしまいました。私たちの心の支えは、自分たちが人びとのために役立っているという実感です」。例えば、水プロジェクトは、生徒だけでなく多くの人にインパクトをもたらします。今では、学校は家族にとって最も信頼できる水源となっており、多くの生徒がボトルに水を入れて持ち帰っているそうです。

トリポリ・コスモポリス・ロータリークラブによるプロジェクトは、レバノン北部と南部のサイダ地区の学校を対象としたもので、このイニシアチブの集大成の一つです。ベイルートで水処理事業を行う Water for Life は、腐食した亜鉛メッキ鋼板のタンクの代わりに、3 層構造のグラスファイバー強化プラスチック製のタンクを設置しました。

水源からポンプでタンクに送られた水は、定期的に塩素錠剤で処理されます。その後、ろ過機で浮遊物を除去し、カーボンフィルターで塩素を除去した後、紫外線装置で殺菌を行います。そして、停電時にも重力で水が流れるよう、高い位置に設置されたプラスチック製のタンクに水が溜まります。

持続可能性を確保するため、ロータリークラブは、学校と自治体に、年に 2~3 回フィルターを交換することに同意してもらいました。教育省は全校長に対し、検査のための立ち入りを許可し、フィルターの交換費用を予算に含めるよう通達を出しました。

World Vision で水・衛生担当シニアコーディネーターを務めていたジャド・ゲレスさんは、各校のニーズを把握し、システム導入の前後に水の検査を行うために雇われました。また、最初の 1 年間は学校独自の試験の結果もモニターしています。

水プロジェクトの運営委員会は、停電の回避策として、学校にソーラーパネルを設置することを検討しています。しかし、最も重要なのは、水システムの長期的な持続可能性を確保することです。

「私たちはこのプロジェクトを最後までやり遂げます」とムアワドさん。「子どもたちは、地域全体を変えていく存在です。私は以前、水道の設置作業に参加したことがありますが、子どもたちが安全な水を飲む姿を見るたびに、大きな励ましをもらいました。子どもたちの目は、ロータリアンなら誰もが見たいと思う、幸せ、信頼、希望にあふれています。私たちが行っていることの大切さを実感できる瞬間です」

本稿は『Rotary』誌 (2023 年 2 月号) に掲載された記事を翻訳したものです。



屋上の貯水槽でろ過した水を地上の蛇口から供給しています
写真提供: Rym Dada-Husseini